

アワーミュージアム

第 39 号 2009 年 2 月 28 日発行



身近な地神塔を調査して

坂東 直道 (友の会会員)

友の会行事の中津浦ウォークに参加して、中津浦という地名から、昔は海辺であったことを連想しながら、地神塔、七社神社、雲水庵、恵解山古墳群他を見学して回った。路傍には、山神様の祠や地蔵尊が点在しており、住民は自然に親しみ、神仏を厚く信仰していたのではないかと思った。

地神塔については、県内各地の神社や田畑の中でよく見かける。今回のウォークで、寛政元年(1789)、神職の早雲伯耆が藩主に具申し、翌年の藩のお触れが、神社や広場での建立に影響をあたえたことを学んだ。

過去の研修で、地神塔の中心神は、農業の祖神である天照大神で、五穀の祖神四柱が五角柱の側面に刻まれ、春秋の社日に祭礼が行われることは聞いていた。また、天照大神が北面するように建立されているものが多いとも聞いていた。今回のウォーク体験をきっかけに、改めて身近な地神塔について調べてみた。

1. 谷島の地神さん

所在地：阿波市阿波町東谷島南
立地：畑中に建立。常夜燈と並立。

材質：砂岩製

五角柱サイズ：一辺 17cm × 高さ 64cm

建立年：地神塔建立年 寛政 3 (1791) 年
常夜燈建立年 寛政 9 (1797) 年

五神名：中心に天照大神 (北面)
左側に倉稲魂命、少彦名命
右側に埴安姫命、大己貴命

(埴安媛命の媛が姫の字になっている。)



谷島の地神塔

2. 川北の地神さん

所在地：阿波市市場町日開谷字川北
立地：神社境内。4段の台上に建立。
材質：砂岩製

五角柱サイズ：一辺 15cm × 高さ 53cm

建立年：嘉永 5 (1852) 年 2 月吉日建立

五神名：中心に天照大神 (南面)

左側に稲倉魂命、埴安媛命

右側に大己貴命、少彦名命

(倉稲が稲倉。埴安媛命が左、少彦名命が右になっており、谷島のものと違っている。)



川北の地神塔

3. 為^{ためご}後の地神さん

所在地：阿波市市場町日開谷字為後
 立地：畑中に建立。祠に地神様と刻まれ、
 川原の石を積んだ台座上に安置。
 材質：砂岩製
 五角柱サイズ：なし
 建立年：安政6（1859）年2月吉日建立
 昭和59（1984）年に台座改修
 五神名：なし。祠は南面。



為後の地神塔

4. 事^{ことしろぬし}代主神社の地神さん

所在地：阿波市市場町上喜来字蛭子
 立地：社殿に隣接して建立
 材質：砂岩製
 五角柱サイズ：一辺14cm × 高さ55cm
 建立年：明治26（1893）年
 五神名：中心に天照大神（北面）
 左側に倉稻魂命、埴安媛命
 右側に大己貴命、少彦名命
 （埴安媛命が左、少彦名命が右で川北のものと同じ。）



事代主神社の地神塔

5. 高^{こうべ}部神社の地神さん

所在地：阿波市市場町大俣字行峯
 立地：神社の本殿に隣接して建立
 材質：砂岩製
 五角柱サイズ：一辺16cm × 高さ56cm
 建立年：不詳
 五神名：中心に天照皇大神（東面）
 左側に稲倉魂命、埴安媛命
 右側に大己貴命、少彦名命
 （倉稻魂命の倉稲が稲倉となっている。埴安媛命が左、少彦名命が右で川北のものと同じ。）



高部神社の地神塔

6. 中^{なかみょう}ノ名の地神さん

所在地：阿波市市場町日開谷字中ノ名
 立地：棚田の大木の下に建立
 材質：砂岩製
 五角柱サイズ：一辺15cm × 高さ54cm
 建立年：不詳
 五神名：中心に天照大神（北面）
 左側に稲蒼魂命、埴安比賣命
 右側に大己貴命、少彦名命
 （倉稻魂命の倉稲が稲蒼、埴安媛命の媛が比賣。埴安媛命が左、少彦名命が右で川北のものと同じ。）



中ノ名の地神塔

7. 徳島市気延山箭執神社の地神さん

所在地：徳島市国府町矢野

立地：箭執神社境内

材質：砂岩製

五角柱サイズ：計測せず

建立年：不詳

五神名：中心に天照大神（北面）

地神塔の建立年代は、いずれも 1790 年以降で、阿波藩のお触れ書きに基づき設置されたものであることが確認できた。

五神の名は固定されており、配列については、農業祖神とされる天照大神を中心に左側へ五穀祖神である倉稻魂命、土御祖神である埴安媛命を配し、右側に五穀護神とされる大己貴命、少彦名命を配し、統一された配列となっている。このことから、神名表記方法についても、藩の何らかの指示があったのではなかろうかと思われる。しかし、媛と姫・比賣、倉と蒼、倉稻と稻倉と表記が異なる原因については、今後の調査課題でもある。

県内の地神塔は、天照大神を北面に位置して建立されていると聞いていたが、今回の調査でも、北面するものが多かった。高部神社では東面していたが、神社自体が東面しており、敷地の関係で

東面しなければ建てられなかったと考えられる。

天照大神のみが北面、または南面していることについて、地域の神職のM氏（元文化財審議委員）にお尋ねした。「神は南面するように配し、北又は東に面して拜むのが普通であるが、一時期、北を上として祭礼する風習があり、神々の中でも格の高い天照大神や^{おおくにぬしのみこと}大国主命を北面する形で残されているものをよく見かけます。」とのことであった。

県内では、どこでもよく見かける地神塔ではあるが、よく見ると、地域によって五角柱のサイズ、基台や構成材、周辺環境、祭礼への住民の関わり方等、それぞれに異なる。過去の石造遺物として放置されているものもある。地域住民の農業への依存度や信仰心が具現化されたものが地神塔であったように思える。昔の風俗習慣が簡略化され、消え去ろうとしている今日、記録として残しておくことの大切さを実感している。

友の会行事報告

たじま たんば 但馬・丹波一泊研修の旅

◎ 10月4日（土）～5（日）

◎ 兵庫県但馬・丹波方面 参加者 39 名

◎ 行事担当 ^{ただせいすけ} 多田精介（友の会役員）
^{なかおけんいち} 中尾賢一（博物館学芸員）

◎ 概 要

今年度の一泊研修の旅は、次のコースで実施しました。①兵庫県立人と自然の博物館→②丹波竜発掘現場→③丹波竜化石工房→④^{こうぼう たけだじょうし}竹田城址→⑤^{きのさき}城崎温泉（泊）→⑥^{げんぶどう}玄武洞→⑦^{いずしじょうかまち}出石城下町→⑧^{いくの}生野銀山。

一泊研修のコースのうち、地質・古生物に関連した3か所（丹波竜、玄武洞、生野銀山）について、簡単に解説します。

・ 丹波竜

2006年8月に地元のアマチュア化石研究者2人が^{ささやま かしょう}篠山川の河床で発見した恐竜です。特定個体のニックネームであり、丹波市の^{しょうひょうとうろく}商標登録でもあり

ます。アパトサウルスやディプロドクスなどと同じ竜脚類に属する恐竜であることは確実ですが、その特徴は何か、新種かどうかなどを明らかにする分類学的研究は現在も続いており、まだ確定していません。今のところティタノサウルス（チタノサウルス）形類とされています。

丹波竜はこれまで国内で発見された恐竜化石の中では、最も状態がよいものです。ほぼ全身の骨がそろって出てくるのが期待されています。死ぬとふつうは簡単にバラバラになる骨が関節でつながった状態で出てくること、および地層の向きと骨の位置がその理由です。また丹波竜の化石とともに、肉食・草食恐竜の歯の化石も見つかっています。2009年2月現在、第三次発掘調査が行われています。

化石の発掘調査を行うときに、最も手間と時間がかかるのがクリーニングです。化石のまわりに付着したよけいな泥や砂などを落とす作業で、恐竜に限らず、化石の研究には必須の作業です。クリーニングは現在、丹波市が地元で設置した「丹波竜化石工房」と、兵庫県立人と自然の博物館に設置された「ひとく恐竜ラボ」で並行して行われています。ともに作業を見学できるほか、解説パネルなども設置されており、調査の概要がわかるようになっています。今後の発掘の進展が楽しみです。

・玄武洞

玄武とは、朱雀、青龍、白虎とともに四方を守る四神のひとつです。亀と蛇が組み合わさった形をしており、北を守り、黒を表しています。

溶岩などが地表で冷えて固まるときに、多角形



兵庫県立人と自然博物館

(4～8角形、多くは六角形)の柱状に規則的に割れることがよくあります。このような現象を柱状節理とよびます。きれいな柱状節理が見られる場所として玄武洞は全国的に有名で、「日本の地質百選」のひとつにもあげられています。玄武洞の命名者は、幕末の儒学者である柴野栗山です。おそらく、黒っぽいこと、柱状節理の六角形の断面が亀の甲羅を思わせるところなどから、玄武洞という名前をつけたのでしょう。近くには、青龍洞、白虎洞、北朱雀洞、南朱雀洞があります。玄武洞や青龍洞は江戸時代の採石場跡であり、自然にできた地形ではありません。

地質学史上では、玄武岩という岩石名の由来となった場所として、また、過去において現在の地磁気とは逆向きの時代があったことが世界で初めてわかった場所として有名です。

・生野銀山

兵庫県朝来市に開かれていた、戦国時代から昭和にかけての日本有数の銀山です。史跡・生野銀山となっており、坑道巡りのほか、鉱山資料館には「和田コレクション」をはじめとした多数の貴重な鉱物が展示されています。2007年に「日本の地質百選」に選定されました。

併設の鉱物資料館を見たところ、数種類の徳島県産鉱物を見つけることができました。現在は絶産となっている2点の眉山産ルチル（金紅石）はとくにみごとなものでした。（地学担当：中尾）

参加者の声

○七條 魁（小学校3年生）

10月4日（土）。6時に家を出て、文化の森に



丹波竜発掘現場

行きました。文化の森でバスに乗りかえて、丹波篠山へ行きました。はじめに、「人と自然の博物館」へ行きました。丹波竜のろっ骨を、電気ドリルのようなものでクリーニングしているところを見学しました。最初は、尾と首の骨が見つかったそうです。去年、胴体の骨がとりだされて、来年は、頭の骨を掘り出す予定だそうです。次に、世界中のいろんな昆虫や花を見ました。ヘラクレスオオカブトが、たくさんかざられていました。十七年ゼミは、ヒグラシに似ていると思いました。

次に、丹波竜発掘現場へ行きました。篠山川の川岸の岩場で見つかり、かくされていました。近くの化石工房でクリーニングしている仕事を見学しました。ほくも化石をとり出す仕事をしてみたいと思いました。

次に、天空の城と言われる竹田城あとを、タクシーで見に行きました。まわりの山を見下ろす高い山の上のお城です。本丸の石垣の上で、「ヤッホー、ヤッホー」と何度も言いました。とても気持ちよかったです。午後6時半に、城崎温泉の「あさぎり荘」というホテルにつきました。お子様ランチを食べてから温泉に入りました。やなぎの湯とごくらくの湯にも入り、温泉のはしごをしました。

10月5日(日)。玄武洞に行きました。石の柱が、壁になっていました。石は、玄武岩という石だそうです。ほくは、小さな玄武岩を拾って帰りました。次に、出石に行きました。お城に登ったり、辰鼓楼しんころうという時計台や武家屋敷ぶけやしきなどを見学したりしました。金色のおかごにほくも乗って見たかったです。4年生の子が大名行列するそうですが、ほくもしたかったです。次に、生野銀山いくのぎんざんへ行きました。



朝来市 竹田城址

した。長いほら穴に入りました。手ぼりで、ほら穴をほって銀をとりだしました。いろいろな鉱物標本を見てから、人車とトロリー電車の前で写真をとってかえりました。

恐竜化石が見られてとてもよかった旅行でした。
○勝瀬 光康 (小学校3年生)

ほくは小2の夏休みの自由研究で、石が好きになりました。よく博物館へ行きますが、徳島県だけでは、やはり石の数にも限界があったので、今回の旅行はとてもおもしろかったです。一番良かったのは生野銀山です。また、企画してください。

○川上 左恵子

一泊研修で特に良かった竹田城跡は、360度俯瞰でき、壮大な石垣に目を見張るばかりでした。又、玄武洞も自然の不思議な力に驚き、珍しい玄武岩の層も見ることが出来、一つ知識が・・・。

出石城下町も生野銀山も大変見応えがありました。城崎温泉の町並みの風情が夜で見えなかったのが、少し残念でした。

○桑内 隆

今回の研修の旅で、特に印象に残ったのは2つでした。

竹田城跡は、石垣のみですが、その雄姿に圧倒されました。頂上からは四方の街や田畑が見渡せますが、そんなに経済的に豊かな土地とは思えません。そこに大きな城を、しかも山上につくるメリットがあったのか疑問であります。

生野銀山は、1200年の歴史をもつ古来より日本有数の銀山との説明を受けました。何よりびっくりしたのは、昔の手掘りの状況が実感できたことです。あの硬い岩盤を、一人がやっと通れるほど



旧生野代官所前

の坑道を、ノミとツチだけで延々と掘り進んだことは、信じ難い光景でした。

○井上 暁

下から眺めたことは2度ある竹田城跡石垣のすごさにびっくりしました。生野銀山跡では、丁寧な説明をして下さり、先人の苦勞がよくわかり、すごさに感動です。久しぶりの城崎温泉もゆっくりでき、楽しい一夜でした。

○竹内 民子

入会後、初めての参加行事の一泊研修の旅でしたが、皆様和気あいあいの楽しく有意義な旅行でした。一緒に参加しました佐賀さんも私も、目的地のすべての場所が初めて訪れる所ばかりでした。どこも、古い歴史があり、勉強になるおもしろい所ばかりでした。

○松本 修

40年ぶりの玄武洞。自分の記憶とは少し様子が違う、おかしいと思いながら青龍洞を見に行くと、自分の記憶と一致した。玄武洞が名前が違って4カ所あることに改めて気付いた。

その他は、人と自然の博物館、竹田城址等、見どころがたくさんあって、収穫の多い旅であった。来年も行けたら、ぜひ参加したい。

○南部 洋子

一泊研修は2回目の参加です。案内の目的地を見て、是非参加したいと思いましたが、実際に120%大満足の旅でした。

2006年に発見されたばかりの丹波竜の化石のクリーニング作業を間近で見、実際の発掘現場を訪ねるといのは、とてもワクワクするものでした。天空の城・竹田城址は、現地に行って、その高さで規模を実感しました。城崎温泉は、昔ながらの情緒が残る温泉街で、浴衣に下駄の音を響かせながらの外湯めぐりを堪能しました。玄武洞は、喚声を上げるほどの自然の造形の不思議さ。出石は、但馬の小京都といわれる落ち着いた町で、散策やそばを味わいました。生野銀山は、坑道を歩きながら流暢な説明に聞き入りつつ、人間の営みのすごさを感じました。

目的地、車中、宿、食事、風呂、どれをとっても不足なく申し分のない旅でした。

友の会行事報告

神山町を歩こう

◎10月13日(月) 9:30~14:00

◎神山町にて 参加者28名

◎行事担当 澤 祥二朗(友の会役員)

庄武憲子(博物館学芸員)

◎西上角・寄井のマチの見所

平成20年10月13日に友の会行事として「神山町を歩こう」を開催しました。これは、地域のマチとして機能してきた通りを歩いて、昭和30年頃の様子を振り返り、現在の生活との違いを考えてみようという趣旨で企画したものです。

今回、最初に歩いた神領西上角は、上一宮大栗神社の門前に当たり、商いを営む家が増えてマチを形成してきた所です。昭和30年頃には、「白妙」という銘柄の日本酒の造酒屋があったのをはじめ、旅館、呉服屋、自転車屋、魚屋、菓子屋、などの商家や桶屋、表具屋、石屋など職人のお店があったそうです。現在は、かつての商売をやめてしまっている所がほとんどですが、商売をしていた当時の家屋が残り、懐かしい雰囲気を感じる事ができます。例えば元傘屋さんの玄関には「かさや」という表示が残っていたりします。

続いて訪ねた神領寄井は、神山町内でもっとも人口が密集している所で、南から高根谷川、野間谷川が鮎喰川本流に合流し、物資の集散地



西上角のマチ

となっていました。また、大正末期に鮎喰川沿いの道路が広げられた頃から、大きなマチへと発展したとされます。昭和30年頃、飲食店、料理旅館、写真館、呉服屋、自転車屋、ラジオ店、衣料品店、鍛冶屋、ブリキ屋があったほか、昭和4年頃建てられた寄井座という劇場がありました。この寄井座は、昭和30年代後半頃から、テレビの普及などによって興行が少なくなり、劇場として使用されなくなりました。現在でも劇場の建物は残っており、見学できるようになっています。

この劇場のおもしろい所は、天井に残された広告看板です。劇場の経営に出資した人たちの商売を見てとることができます。桶屋、提灯屋、鋳力屋などの名前があり時代の変遷を感じます。見学当時に一番もりあがったのは、神山町内にあったキャバレーで働いていたと思われる女性の名前が記された広告でした。

地域のマチは、それぞれの思い出がいっぱい残っている大切な場所だと思います。ほかにも訪ねてみたいので、皆さんおすすめのマチがありましたら御紹介ください。(民俗担当：庄武)

参加者の声

○鈴木 秀夫

寄井座の説明も神山町や徳島の歴史を知る上で参考になりました。もう少し神山町の自然にも触れたかったですが、楽しく一日を過ごせました。



寄井座の天井に残された広告看板

○久保 又一

昭和30年代の上角のマチにタイムスリップして、上一之宮大栗神社の門前で商いを営む家屋・職人の家も50年の歳月とともに変遷した家並みを比較し、感無量で歩きました。寄井のマチでも、同じような町並みを味わい、寄井座の天井の広告の看板絵を見て、この時代も現代も商売には広告が大事なんだなと思いながら、当時の製糸業の隆盛さを思い浮かべ、マチをあとにしました。有意義な一日でした。

友の会行事報告

第5回 八万町の昔を探ろう

～晩秋の中津浦・恵解山古墳群散策～

◎11月23日(日) 9:00～12:30

◎徳島市八万町中津浦

◎参加者 37名(友の会会員21名)

◎行事担当 関 真由子、大杉洋子、南部洋子(友の会役員)

磯本宏紀、高島芳弘(博物館学芸員)

◎概要

「八万町の昔を探ろう」シリーズの第5回目となる今回は、中津浦地区を中心に次のコースで実施しました。①地神塔→②七社神社→③雲水庵跡(池田家墓地、東嶽禪師墓地ほか)→④紙漉谷→⑤牧牛庵跡→⑥山の神→⑦庚申塔、北向き地藏ほか→⑧恵解山古墳群跡。16日に実施予定でしたが、あいにくの雨で順延。でも、この日は快晴となり、爽やかな秋空の下、いにしえに思いを馳せながらの楽しい散策となりました。また、中津浦地区の方を中心に、地域の方も多数参加してくださり、色んなお話が聞けたのも有意義でした。

今回の「八万町の昔を探ろう」は、「平成20年度文化庁芸術拠点形成事業(ミュージアムタウン構想の推進)『八万町の昔を探ろう』から地域をプロデュースするプロジェクト」という、とても長い名前の事業の一環でもありました。この事業は、博物館、博物館友の会、小学校等が連携して地域史の調査を実施し、地域教材としても活用できる「ガイドブック」を作成し、活用するこ

とを目的としています。その「ガイドブック」は、担当の関さん、大杉さん、南部さん、磯本学芸員の方で、額に汗しながら執筆中です（2009年3月刊行予定）。完成しましたら、会員の皆さんにもお配りします。

なお、常設展示室前に今回の行事のパネル展示をしています。ご来館の際、ぜひご覧ください。（事務局：向原敬夫）

参加者の声

○伊勢 ひとみ

先日来の寒波も遠退き、おだやかな冬晴れのなか、第5回目の「八万町の昔を探ろう」に参加させて頂き、お世話になりました。回を重ねるごとに知識も増えていき、また、沢山歩くので運動もでき、健康にもつながり嬉しく思います。参加されていた地元の方からも山の神のことなど親切に教えて頂きました。都合で最後までいかれず、残念でしたが、古墳の山が開発され、今は住宅地になっているのを目の当たりにして、複雑な気持ちでした。

○竹内 初子

当日は晴天で、テクテク歩くと、汗ばむぐらいでした。生まれも育ちも八万の私でも、今日ご説明していただいた処は初めて



八万町中津浦 雲水庵跡付近

であり、特に恥ずかしながら恵解山古墳群が八万町にあったことを知ったのも。ただ、北向き地蔵さんは下福万にもあり、夷山の地元の人が、「ちころの墓」と呼称しており、こちらも立派なものです。色んな方々とお話でき、楽しい半日でした。

○浜田 武夫

地元で普段の散歩道として毎日歩いておりましたが、これ程由緒あるところがあったとは、想像もしておりませんでした。今回の中津浦ウォークを機会に、再々同コースを散歩したいと思います。

午後から復習の意味と知人の案内を兼ねて同コースを歩いてみましたら、1時間20分（約6500歩）を要しました。今後も色々な企画に参加したいと思います。

○三輪 弘昭

八万町中津浦地区にある多くの信仰の跡を見学することができ、有意義な一日でした。また、いつも詳しい資料をありがとうございました。

地神塔は、僕の地区では「じちんさん」と呼ばれていて、年2回地神祭を行っています。山ノ神さんは、地区の人が集まり祭礼を行っているの、身近な感じがしました。

昔の人々の信仰心に触れることができました。また、来年も参加してみたいです。



移築された恵解山9号墳石室

No.39

徳島県立博物館友の会会報

アワーミュージアム



February
2009
Tokushima
Prefectural
Museum

第39号

2009年2月28日発行：徳島県立博物館友の会
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197
E-mail: mus-fukyu@mt.tokushima-ec.ed.jp